

おとめの問題

B

● 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

しばらくたって、いちが何やら布団の中で独り言を言った。「ああ、そうしよう。きつとできるわ。」と、言ったようである。¹

まつがそれを聞きつけた。そして「姉さん、まだ寝ないの。」と言った。「大きい声をおしでない。私いいことを考えたから。」いちはますこう言つて妹を制しておいて、それから小声でこういうことをささやいた。お父っさんはあさつて殺されるのである。自分は、それを殺させぬようにすることができると思う。どうするかという、願い書というものを書いてお奉行様に出すのである。しかしただ殺さないでお願いとお願いと言つたつて、それでは聴かれない。お父っさんを助けて、その代わりに私ども子どもを殺してくださいと言つて頼むのである。² それをお奉行様が聴いてくださつて、お父っさんが助ければ、それでいい。子どもは本当に皆殺されるやら、私が殺されて、小さい者は助かるやら、それは分からない。ただお願いをするとき、長太郎だけは一緒に殺してくだらないように書いておく。あれはお父っさんの本当の子でないから、死ななくてもいい。それにお父っさんがこの家の跡を取らせようと言つていらつしゃつたのだから、殺されないほうがいいのである。いちは妹にそれだけのことを話した。

「でも怖いわね。」と、まつが言った。
「そんなら、お父っさんが助けてもらいたくないの。」
「それは助けてもらいたいわ。」
「それなら。まつさんはただ私についてきて同じようにさえていければいいのだよ。私が今夜願い書を書いておいて、あしたの朝早く持つていきましようね。」

いちは起きて、手習いの清書をする半紙に、平仮名で願い書を書いた。

父の命を助けて、その代わりに自分と妹のまつ、とく、弟の初五郎をおしおきにしていただきたい。³ 実子でない長太郎だけはお許しくださるようにとお願いすることではあるが、どう書きつづつていいかわからぬので、幾度も書きそこなって、清書の鳴く頃に願い書ができた。しかしとうとう一番鶏の鳴く頃に願い書ができた。

願い書を書いているうちに、まつが寝入ったので、いちは小声で呼び起こして、床の脇に畳んであったふだん着に着替えさせた。そして自分も支度をした。

⁴ 女房と初五郎とは知らずに寝ていたが、長太郎が目覚まして、「姉さん、もう夜が明けたの。」と言つた。いちは長太郎の床のそばへ行つてささやいた。「まだ早いから、おまえは寝ておいで。姉さんたちは、お父っさんのだいじなご用で、そつと行つてくるところがあるのだからね。」

「そんならおいらも行く。」と言つて、長太郎はむっくり起き上がった。いちは言った。「じゃあ、お起き、着物を着せてあげよう。長さんは小さくても男だから、一緒に行つてくれれば、そのほうがいいのよ。」と言つた。

⁵ 女房は夢のようにあたりの騒がしいのを聞いて、少し不安になって寝返りをしたが、目は覚めなかつた。

〔森鷗外「最後の一句」より〕

〔教〕 133～135 P

□ (1) 線①「ああ、そうしよう。きつとできるわ」とありますが、何を、どのようにできるのですか。四十文字以内（句読点も字数に数えます）で書いて答えなさい。

□ (2) 線②「それ」の指す具体的な内容を、三十文字以内（句読点も字数に数えます）で書いて答えなさい。

□ (3) 線③「実子でない長太郎だけはお許しくださるように」とありますが、いちが、長太郎は殺さないでほしいと願うのは、「実子でない」ことのほかにどんな理由からですか。三十五文字以内（句読点も字数に数えます）で書いて答えなさい。

□ (4) 線④「女房と初五郎とは知らずに寝ていた」とありますが、どんなことを知らなかつたのですか。六十文字以内（句読点も字数に数えます）で書いて答えなさい。

□ (5) 線⑤「女房は夢のように辺りの騒がしいのを聞いて、少し不安になって寝返りをしたが、目は覚めなかつた」ありますが、この表現は「女房」のどのような事実を表していますか。四十文字以内（句読点も字数に数えます）で書いて答えなさい。
